

高橋公太 総括副病院長 が「平成24年度日本医師会医学賞」 を受賞しました。

このたび、本院 高橋 公太 総括副病院長に、平成24年度日本医師会医学賞が授与されることとなり、11月1日に開催された日本医師会設立記念医学大会で表彰並びに講演が行われました。

同賞は、毎年1回、日本医師会会員の中から、基礎医学・社会医学・臨床医学の各分野において重要な業績をあげた医師に授与されるものであり、今回、高橋総括副病院長の『ABO血液型不適合腎移植への挑戦－免疫学的禁忌の克服と臨床応用の普及』に関する研究成果とこれまでの実績が高く評価されたものです。

高橋 総括副病院長は、腎移植の適応を拡大するために、1989年からABO血液型不適合腎移植を開始し、日常医療として定着させるために治療法を確立しました。

わが国では通算2,300例以上の不適合腎移植が施行され、適合移植の成績と遜色ありません。さらに600例以上の肝移植にも応用され、最近では膵移植にも実施されています。

受賞決定について、高橋 総括副病院長は、「大変名誉ある賞をいただき、あらためて今までご支援していただきました皆様に心から感謝します。今後も今まで以上に腎不全医療に貢献したいと考えております。ありがとうございました。」と話しています。

